●センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの３者が協働して運営しています。中でも学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、一般学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジンなどの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる講演会の企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐に渡り、そのためには様々な知識や経験が必要となってきます。

このことからボランティア・NPO活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために社会の課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力を持った学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

企画名	2009年度オリエンテーション合宿
報告者名	竹田　純子　（深草キャンパス　コーディネーター）
日　　時	2009年６月６日（土）　12時50分～６月７日（日）15時30分
場　　所	龍谷大学セミナーハウス　ともいき荘
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	学生69人（深草26人　瀬田43人）、教職員７人　計76人

■経緯・目的

前年度までは学生のみで合宿の内容を決定していたが、オリエンテーション合宿をより良いものにするために、今年度からコーディネーターも実行メンバーとして参加することになりました。また、前回までは“交流”をメインにして企画してきましたが､今年度は､下記の目標の元に企画を行うことになりました。

実行委員のメンバーで“この合宿で何を伝えたいのか”を考え、以下の通りまとめました。

①ボラセンの役割を伝える
②学生スタッフの仕事全般の理解
　※学生スタッフの役割をきちんと理解しないまま入ってくる学生も多いため
③ボランティアの多様性の理解
★①②③を通して､学生スタッフとしての『自覚』につなげることを目標にしました。

■概　　要

当日までに深草・瀬田の学生スタッフ合わせて６名とコーディネーター１名が集まって実行委員会結成し、２/13 ～ 5/14までの計４回ミーティングを実施しました。また、学舎が違うためミーティング回数が多いと実行委員の負担が多いので、簡単な打合せはメールを活用して行いました。

当日のスケジュールは下記の通り

★１日目
　①阪口センター長挨拶
　②アイスブレイク
　③セミナー「ボラセンの理解」

講師：筒井副センター長
④センターの活動紹介
⑤交流会
★２日目
⑥ワーク
・アイスブレイク
・学生スタッフの役割を理解する為のワーク
・コーディネート体験のワーク
・まとめ
⑦合宿の振り返り

■参加者の声・得られた効果など

・ボラセンの必要性を理解できた
・ボランティア活動は人と人との関わり合いであり、多くの人と接することで自分も成長していくことを知った
・みんなのボランティアに対する意識の高さを感じた。

等の声を聞くことが出来ました。これらの声からもこの合宿の目的でであった「ボラセンを理解してもらうこと」の一歩を踏み出すことが出来たのではないのかと感じています。

■コーディネーター所感

今回のオリエンテーション合宿は、コーディネーターも一緒に入って実行委員会形式での実施でした。このような形式で合宿を企画するのは初めての経験で、何もかもが手探りでしたが、１泊２日という短い期間の中で密度濃い合宿が出来たように感じています。ただ、センターの活動・役割を理解してもらうことに重点を置いて実施したため、その目的は達することが出来たと感じていますが、約70名もの多人数で実施となったため、なかなか学生同士の交流を深めることが出来ず、大きな課題が残りました。

次年度は、センターの活動や役割を理解してもらうという目標はそのままで、いかにその間に交流できる機会を作るかということにも留意したいと思います。

企画名	国内研修2009 「ふり返ってふり返ってふり返ったらーなんか後期もいけそうな気がするー」
報告者名	寺田　　実　（文学部　哲学科　２年次生）
日　　時	2009年９月８日（火）　12時00分～９月９日（水）　12時00分
場　　所	セミナーハウス「ともいき荘」
実施主体	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（深草）
参加人数	26人（職員２名）

■経緯・目的

今回の国内研修は、通常と違い団体訪問と合宿を別の日程で実施しました。

＜団体訪問の経緯・目的＞

センターの学生スタッフの役割の１つとして『来室者対応』があります。私達はボランティアについての情報を多く持ち、情報を求める学生に提供していかなければいけません。ところが、学生スタッフ内で行った『模擬来室者対応』で、今年度新しく入った学生スタッフだけでなく、従来からの学生スタッフもボランティア情報を詳しく知っている学生が少ないという課題が顕わになりました。

そこで今回の国内研修では、ボランティア団体へ訪問して団体が行っている活動について直接お話をうかがい、今後に活かせるようにしたいです。

＜合宿研修の経緯・目的＞

団体訪問を通して得たものを日常のコーディネートに活かすことによって、これからのセンターの発展を目指します。また、学生スタッフがセンターの活動に対してより積極的に取り組み、その内容を魅力的に語れるようになること、一人ひとりが個人に見合った収穫を得て「良かった」と思える国内研修を皆で作ることです。

■概　　要

＜団体訪問のスケジュール＞

６月中～下旬：団体訪問のグループと訪問先

を決定
７月上旬　　：団体訪問先のアポ取り
８月下旬～９月上旬：事前勉強会を実施してから団体訪問を行い、その後グループ毎に振返り。
※団体訪問先（大阪YWCA、伏見青少年活動センター、山科青少年活動センター、竹と緑の会）
＜合宿全体のスケジュール＞
●９月８日
12：00　合宿開会
12：10　①前期ふり返りと後期スケジュール
（担当：鵜川、横関）
19：00　②団体訪問報告会
（担当：寺田、片岡）
22：00　交流会
●９月９日
９：00　③合宿全体のふり返り
11：30　閉会・解散

①前期ふり返り＆後期スケジュール
2009年の前期の企画、来室者対応、広報・掲示・コーディネート班の活動を振返り、良かった点や反省点を挙げて現段階までのセンターの活動の流れを把握し、後期の活動がより良く運営出来るようにする為に実施しました。
方法としてはKJ法を使って学年別の話し合いを行いました。話し合いでは多くの反省点や課題が明確になり、後期はこれらの課題を踏まえつつ前期よりももっと良い運営を目指し活動することを確認しました。
②団体訪問報告会
夏季休業期間中に１・２回生を中心に実施した団体訪問で得た知識を今後のコーディネートに活かすために学生スタッフ全体で情報共有しました。
また、団体訪問で得た情報を訪問に参加した一人ひとりが必ず発言する機会をつくり、発表する力を養う機会にしました。
報告会では、まず簡単に報告会の流れを説明し、次に１・２回生が各団体訪問のグループで団体訪問の振返りとまとめを行い、その間３回生は後輩にコーディネートについてのアドバイス５つを考えてもらいました。
その後１～３回生で７～８人のグループを３つ作り、それぞれ訪問した団体について発表と質疑応答を行い、最後に３回生からコーディネートについてのアドバイスをもらいました。
③合宿全体のふり返り
全員で「自分の取扱説明書」を作成しました。「自分の取扱説明書」には、名前・あだ名・誕生日・長所・短所・自分はこういう人だからこういう風に接してほしい・前期でのボラセンの活動・後期ボラセンで目標などを書き、これを一人ひとりが前に出て発表しました。

■参加者の声・得られた効果など
＜団体訪問＞
今回の団体訪問では「団体のことがよく分かった。」「今回のことを活かして後期のコーディネートに生かしたい」「訪問した団体の企画に参加したい」などの声がありました。これらからも分かるように団体訪問ではチラシだけでは知ることが出来ない情報を知ることが出来きました。例えば、団体の雰囲気や職員の企画に対する思い、ボランティアの実績や詳細な情報などです。また、団体訪問を通して団体の情報だけでなく、訪問した学生個人のコーディネートに対する意識が高まったことも感じています。「今度もまた団体訪問をしたい」という声もあり、今後も機会があれば実施していきたいです。
＜国内研修＞
「前期をしっかり振返ったり、自分自身を見直せて良いところも悪いところも見つけられて良かった」「センター企画の進め方を共有でき、自分はどう頑張るべきかの意識が高まってすごくいい合宿だった」「現在の作業

や後期の計画を見直すことの出来る、実に良い機会」などの声がありました。新スタッフが改めてセンターで現在進めている企画やコーディネート、広報、掲示、コーディネート班の活動を知る機会にもなりました。前期・後期の節目ごとにこのような合宿で振返りやこれからのスケジュールをスタッフ全体で考えていくことの重要性を感じました。また、団体訪問報告会では「緊張した」「あまり発表出来なかった」といった声が特に新スタッフに多かったのですが、一人ひとりがきちんと責任をもって発表が出来ていたように感じています。それぞれ学生スタッフにとって良い機会になりました。さらに「合宿で今まで話したことなかった人と話ができて良かった」という声もあり、この合宿が学生スタッフの大切な交流の場にもなりました。今後も前期・後期の節目には合宿を行い、センターでの活動の振返り、学生スタッフ同士の交流をしたいです。

■学んだこと・今後の課題

国内研修全体を通して、準備の不十分さを痛感さしました。予定通り進まないことや報告会の資料が一部欠けていたからです。これらのことは事前準備がしっかりしていれば起こらなかったことで、しっかり計画を立てて事前準備をしていくことの大切さを実感しました。今回のような国内研修は学生スタッフ全体が様々なことを共有する大切な場なので、これから先もっと良いものが出来るよう反省点をきちんと記録に残し、今後に活かしたいです。（竹本）

企画に携わることで企画をする難しさを知りましたが、一方でこれからの自分の糧になった部分も数多くありました。この企画で学んだことを次からの活動に活かしていきたいです。（寺田）

例年とは異なる形の企画を立てるにあたり、コアメンバーとの情報共有不足が目立ったことが反省点です。コアメンバーそれぞれが他の企画などで多忙であったため、コミュニケーション不足になってしまいました。また、新しいことへの挑戦に対して困惑があったにもかかわらず「相談する」ということがあまり出来なかったように思います。しかし、少ないミーティングでいかに効率的に審議を進めていくかを考え、工夫して時間を有効活用することを皆が努力していました。今後はどのような企画においても「報連相」を大切にしたいです。合宿中、参加したスタッフの真剣な表情や意外な一面を見たり、これまでよりも深くお互いのことを知り、センターについて考える機会なったことは大変有意義でした。夏休み中に実施した団体訪問を含め、学生スタッフとしてのスキルアップにつながる合宿だったと思います。（横関）

スケジュールや人数確認など事前に確認すべきことが直前に決定してしまい、メンバー間での情報共有が難しかった。当日の時間がおした場合の対処法もある程度考えておくべでした。このように皆の意見を聞き合う振返りの場はこれからも必要だと思今回は学生スタッフだけでなく他団体との関わりがあったので、いかに時間に余裕をもってスムーズに仕事をするかが問われました。団体との連絡は余裕をもって出来たものの、しおり作成など学生スタッフ内の情報共有が不十分になってしまいました。国内研修に不参加の人との情報共有をどのように行うかも今後の課題だと感じています。（片岡）

企画名　タイトル	国内研修（瀬田）
報告者名	玉置　友圭子　（国際文化学部国際文化学科１年次生）
日　時	2009年９月８日（火）～９月10日（木）
場　所	兵庫県（東遊園地、北淡震災記念公園など）
実施主体	ボランティア・NPO活動センター（瀬田）
参加人数	37人（学生スタッフ35人・引率職員２人）

■経緯・目的

阪神淡路大震災では、全国各地からボランティアが集まり、震災以降「ボランティア」という言葉が広く使われるようになりました。

震災はいつどこで起こるかわからない状況ですが、時間とともに記憶が風化しているように思いました。

そこで今回震災の被害や教訓、震災時のボランティア活動について深く学びたいと思い、今回のテーマを選びました。

- 大災害が起こったときに、どのようなボランティアが必要とされるのかを考えたいです。
- ボランティアの意義や本質を見つめなおします。
- 「ボランティアとは何なのか」などボランティアに対する疑問や、ボランティア活動をするうえで、大切なことを学びたいと思います。
- ボランティアに対する意識を高めた上で、事後学習やボランティアコーディネート、企画などボランティア・NPO活動センターでの活動を通して、一般学生の今後のボランティア活動にもつなげていきたいです。

■概　　要

①事前学習（当時の被災状況や震災当時に行われていたボランティア活動など）

②阪神淡路大震災メモリアルモニュメント見学

③NPO法人阪神高齢者・障害者ネットワーク　理事長黒田裕子さんによる講演
（地域のネットワークの大切さ、震災時やその後の障がい者･高齢者の生活課題など）

④北淡震災記念公園見学（施設見学および被災者の方による被災体験談などの講演

⑤NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク常務理事　寺本弘伸氏による講演

【災害ボランティア概論】
災害ボランティアの現状（兵庫県佐用町の活動など）、問題点、考え方など。

⑥施設見学や講演者のお話などから感じたことや考えたことなどを学生スタッフ同士で話し合うディスカッション及びワークショップ。

■参加者の声

○よかった点

- ボランティアというものをもう一度深く考えさせられるいい機会となりました。
- 地域の人々とのつながりや互いに協力することの大きな重要性に気付かされました。
- 実際に被災された方の話を聞くことで、震災というものをとても身近に感じることができました。

○気になった点

- 話を聞き続けるのは厳しかったです。
- 次にどう繋げていくのか、ゴールが曖昧なまま研修が終わってしまいました。
- 意見や発言に消極的でした。
- ディスカッションで話をまとめられないまま発言してしまいました。
- 研修前の急な予定変更などでタイムスケジュールが圧迫してしまいました。

■得られた効果など

今回、震災当時にボランティア活動をされていた方や被災された方に直接お話しを伺うことで，学生スタッフの震災に対する知識や震災ボランティアがどういったものかを具体的に理解することが出来たと同時に、当日の体験談からボランティアの必要性を学びました。

ディスカッションで仲間との意見交換をすることで、自分と同じ考えも違った考え方も共有することで、ボランティアに対する想いがより強まりました。また、人とのコミュニケーションの大切さを学び、ボランティアをしていく上でも地域とのつながりの必要性を感じました。

■学んだこと・今後の課題

研修で様々な施設を訪れるとともに、３名の方の講演を聞き、災害ボランティアの現状、見えなかった問題点、考え方など多くのことを教えて頂きました。

ボランティアとは相手を思い、相手に関心をもつことが大切なのだと学びました。自分の五感すべてを活用し、目の前にいる人に今、何が必要なのかを考え、感じ取り、そして自分に出来ることを見つけ出すことがまず一歩だと思いました。

自分に出来ることは必ずみんな持っています。だからボランティアは誰にでもできる、それがボランティアなのだと教えて頂きました。

一方、研修実施後の反省会では、事前学習での調査不足や研修実施に至るまでの参加者間での知識共有不足が課題となりました。反省会で挙げられた反省点・良かった点について、反省点は次に改善できるように、良かった点は次につなげ、その得たものを何に還元していけるのかを考えていかなければいけないと思います。

今回、たくさんのお話を聞くことが出来、その方々の熱い想いを直接感じて、自分自身のボランティアに対する意欲の向上にもなり、たくさんのことを学んだと同時に、知らないことを知り、それについて考えるという「学ぶ」ことの大切さも教えていただいた様に思います。

これからの活動を活かし、研修に参加していない学生スタッフや一般学生に伝えていくことと、それを通してボランティアについて考えてもらうきっかけをつくっていき、今後のボランティア活動にどうつなげていくかがこれからの課題だと思います。

○外部団体主催の研修会参加

外部団体が主催する研修会やセミナーに学生スタッフが参加し、そこでの学びをボランティア・NPO活動センターに持ち帰り、組織の運営や企画、ボランティアコーディネートに役立てます。

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2009 ～私 主役の大学ボラセン劇場2009～
日　　時	2009年９月17日（木）～　2009年９月18日（金）
場　　所	大阪市立青少年文化創造ステーション　KOKO　PLAZA
主催団体	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2009実行委員会
参加団体	• 京都文教ボランティアセンター • 立命館大学ボランティアセンター • 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター • 特定非営利活動法人ユースビジョン 大学ボランティアセンターリソースセンター
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生スタッフ　　合計65名 （16大学・19キャンパス、企画運営スタッフ８名含む）

■目　　的

このセミナーでは、全国の大学ボランティアセンターの学生スタッフ同士で、悩み解決の糸口を見つけ、スキルアップを目指します。

■セミナー概要

【１日目】 ①挨拶
②参加大学ボラセン紹介
③班別自己紹介
④大学ボラセン自慢
⑤全体会「とことん吐き出し見つけよう！学生スタッフの活動にとって大切なコト」
⑥分科会１～５
⑦交流会

【２日目】 ①大学別ワーク
②まとめの発表とふりかえり
③キャンパス毎で宣言発表
④実行委員の「します宣言」

■センターからの参加者と感想

【企画運営スタッフ】　計３名参加

横関　つかさ（学部　社会学科　３年次生）

セミナー全体で得た学びは非常に多く、参加者の今後の活動に対するモチベーションが上がったと思います。この効果をスタッフ全体に共有するために時間を取って、セミナーで配布された資料やレクチャーの報告、配布によりスタッフへの内容共有を行いたいと考えています。また、ワークの発言がその場限りにならないように残した資料があるので、それらを積極的に利用して、今後の活動に活かしていきたいです。そして、全国各地のボランティアセンターの学生スタッフと交流できたことを、今後大学ボランティアセンターへの訪問や訪問受け入れにつなげて、より交流を深め、センターの発展を目指したいです。

田中　大樹（文学部　史学科　２年次生）

私は、学生スタッフとして活動してきましたが、少しボランティアやコーディネートに対する意欲が下がってきたように感じていました。しかし、全体会や大学別アクションプランで、他大学の学生と作業をしている内に、同じ学生の同じ目線で話せる良さに気づき、学生スタッフのコーディネートの良さに、自分と共通した想いや相違点などを発見し、自分のモチベーションアップにつながりました。

自分の担当していた分科会では、講師との打ち合わせや本番を通し、チラシをよくする裏ワザを学びました。今後のセンターにおけるチラシづくりに役立てたいです。

高田　靖人（社会学部　社会学科　２年次生）

全体会など他大学のボランティアセンター

の学生スタッフと話をする中で『龍谷大学ボランティア・NPO活動センターは恵まれた環境である』ということを感じました。『まだボランティアセンターとして正式に大学に認められない』『発足したばかりでまったく学生スタッフが集まらない』など、ボランティアセンターとして困難な状況にある大学がたくさんありました。

コーディネーターがいて、学生スタッフが大人数でいろんな役割分担ができることなど、瀬田ボラセンの「強み」を生かして行きたいです。

【参加者】深草キャンパス　計３名参加

鵜川　　健（法学部　政治学科　３年次生）

３回目のセミナー参加でした。今年は『引継ぎ』が印象に残りました。今回セミナーへ参加したのは、僕が約２年半スタッフとして活動してきてやって良かった事や悪かった事を他の参加者に伝え、参加者の今後の活動に生かして欲しいという想いからでした。経験を話す中で改めて自分たちの経験を伝えるということの大切さを実感しました。

これからは自分たちの活動経験を後輩たちに伝えるという引き継ぎをがんばっていきたいです。

松本　美紗子（経済学部　国際経済学科　２年次生）

このような外部団体のセミナーに初めて参加して、自分たちのボラセンの特色、個性や自慢できるところを考える機会があり、改めて「深草ボラセン」を知ることができました。地域との関わりが強い大学やこれからボラセンを作ろうとしている大学など、特色や活動内容は様々でした。それぞれの大学の悩みや問題を共有し合い一緒に解決策を見出していくことで、お互いに良い方向が見えたのではないかと思っています。

自分達のボラセンの今を見つめ直すこと、企画の反省をすることなど「ふりかえり」が大事であると改めて思いました。このような機会をこれから増やしていくべきだと思います。

藤澤　良介（経済学部　国際経済学科　３年次生）

全体会では、参加者のボランティアに対する考え方や、学生スタッフの役割に対する考え方を知って、新たな価値観に気づくことができました。

分科会では、企画を作っていく中で絶対に外すことのできない過程を確認できました。１つ１つの作業にとらわれて、自分は何のために動いているのか見失わないように、自分達の目指すゴールはどこにあるのかを常に示し続けなくてはならないと思いました。分科会で学んだ企画作りの流れをセミナーに参加しなかったスタッフにも共有すれば、今後の企画作りに役立つと思います。しっかりとした目的意識を持って、進めていけばイベントなどの企画はそこまで難しいものではないし、自分にとってもとてもプラスになる魅力的な活動であると知ってもらいたいです。

今回のセミナーでは全国各地から本当に熱心な学生が多く集まっていて、今後の活動のために非常に良い刺激になりました。これからもモチベーションを高く持って活動していきたいと思います。

【参加者】瀬田キャンパス　計５名参加

中川　裕依子（社会学部　地域福祉学科　３年次生）

他大学ボラセンとの交流を通じて、いかに自分達は恵まれた環境にいるのか気付くことができました。また、自分のボラセンは地域交流が足りないと感じました。他大学の企画で、地域と鍋パーティを継続的に行うというものがありました。一般学生と地域の方の参加人数も多く、そこで地域の声を聞き、ニーズに合ったボランティアに繋げることもできたそうです。

普段の学生スタッフミーティングで、議題がなかなか進まなかったり、新入生がいまいち入り込めてなくて意見が出なかったりと、雰囲気が良くないと感じることがありました。分科会で学んだミーティングを楽しくする工夫をぜひセンターで生かしていきたいと思います。

笠間　ゆかり（社会学部　地域福祉学科　２年次生）

ボランティアは、優しさ・元気・あたたかさの循環だということや自分は必要とされていると思うことで自発性が生まれることを学びました。人と関わることで自分の知識や視

野が広がるので、これからも人との関わりを大切にして、積極的に様々な活動に参加していきたいと思います。

不破　歩美(国際文化学部　国際文化学科　2年次生)

当ボラセンは地域との交流が希薄であり、今後当ボラセンがより地域で関わっていかなければならないことを深く感じました。また、分科会では、より皆のモチベーションをアップして、意識の高い会議にしていくためにはどうしていくべきかを他大学と共にディスカッションを行いました。会議は準備をしっかりと行い、個々の意見を大事にし、ゴールを決めて行うべきだということを改めて認識しました。

歌藤　智弥(国際文化学部　国際文化学科　1年次生)

ボランティアを自分中心にとらえている面が多かったと気づき、それを反省することができました。

また、何か企画にかかわる時も、企画の前と後での状態や、目的をはっきりさせることが重要だと学んだので、それらを生かした企画にできるようにし、

振り返りもきちんと行いたいと思います。情報共有等においても、ボラセン内でしっかり行い、各々の活動から全体がレベルアップできるようにしていきたいです。

玉置　友圭子(国際文化学部　国際文化学科　1年次生)

今回参加して、もっともっとセンターの認知度をあげることが必要だと強く感じました。そのためにはどうすべきかを、センターで話していきたいです。

また、同じセンターのスタッフ同士もうすこし情報共有が必要だということも感じました。その為にミーティングを増やし、私達のコミュニケーションを増やすことが必要だと考えています。

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー 2010
日　　時	2010年２月９日（火）～２月10日（水）
場　　所	京都市山科区杖の水　ころころハウス
主催団体	特定非営利活動法人ユースビジョン　大学ボランティアセンターリソースセンター
全体参加人数	大学ボランティアセンター等で活動する学生スタッフで2010年度の運営の中核を担うリーダー層　計29名（８大学・９キャンパス、青少年活動団体１団体）

■目　　的

各大学ボランティアセンターの理想の姿に近づくために、今年度の活動を徹底的に振り返り、振り返りを活かして、４月からの新年度の事業計画づくりやスタッフのマネジメントスキルを学びます。

■セミナー概要

【１日目】 ①オリエンテーション
②アイスブレーク
③活動と組織を振り返る
～ 2010年度の活動に
活かす振り返り～
④交流会

【２日目】 ①アクティビティ
②私たちのボラセン2010年度をデザインする
（レクチャーとセンター別ワーク）
③全体のまとめ、振り返り、わかちあい

■センターからの参加者と感想

【参加者】深草キャンパス　計３名参加

藤澤　良介（経済学部　国際経済学科　３年次生）

振り返りをする意味をメンバー内でしっかり共有できていなかったことと、振り返って出た結果を目に見える形に整理していないことに気付きました。

企画責任者として行ったイベントは、大きな成果もあった半面、課題も多く見つかりました。その中で上手くいった点、失敗した点を、目に見える形に整理し、改善してもらえ

るように、後輩に伝えていきたいと思います。

横関　つかさ（法学部　政治学科　２年次生）

組織には目的と目標があり、それが全体だけでなく、班活動など細かい部分にも共有されておらず、活動に対する疑問や意義を見出せていない学生スタッフがいたと感じたので、まずこの問題の解消から取り組まなければならないと思いました。

得たことそのままではなく自分たちにあった形にアレンジを加えて実践し、互いに効果を実感できるよう学生スタッフで共有したいです。

竹本　真梨（法学部　政治学科　２年次生）

センターという組織の目的に沿った学生スタッフの年間の目標や企画の目標を立てることを常に意識し活動しなくてはならないという事を感じました。

自分自身も企画をしているので、センターの目的から外れないような活動にしていきたいと思います。

４月に新しい学生スタッフも入るので、センターの目的や目標、役割を認識して活動してもらえるようにしていきたいです。

【参加者】瀬田キャンパス　計４名参加

広清　　希（社会学部　地域福祉学科　３年次生）

活動に対して振り返りをポイントをしぼって行う必要があると感じました。例えば企画の“活動の達成度”“企画運営”についてそれぞれ「良かった点」「悪かった点」「改善点」という振り返り方法をとってみたいと考えました。学生や地域に何を求められているのか、それをどのように達成していくのかを考えた上での目標づくりをしたいと思います。

畠　　彩乃（社会学部　地域福祉学科　２年次生）

何気なく行っていた振り返りが実はとても重要なものである事に気付けました。活動の成果や改善点、メンバーの感想等を混ぜ込んで話してもらうのではなく、順を追って話し合うことによって目標の達成、実現について深く考える事ができる事を学びました。

谷川　大樹（理工学部　環境ソリューション工学科　２年次生）

チーム力のあるセンターにするにはメンバーのモチベーションを向上させることが必要だと感じました。モチベーションの差がセンターの問題に繋がっていることが分かりました。共通の目的を立て、メンバーのモチベーションを向上させたいと思います。

玉置　友圭子（国際文化学部　国際文化学科　１年次生）

普段活動する中で、目的や目標などをきちんと整理したりすることが出来ていなかった事に気づきました。目標や目的をしっかり持つことは、メンバーの団結力を生み、ミーティングや活動の方向性も明確になるため、組織として最も重要な事だと学びました。今後の活動にあたり、全員で目標や目的について話し合いたいと考えました。